

柔整・接骨史

◆①尾張の産科医・奈倉家

高輪整形外科クリニック 杉澤 あい

【key words】奈倉道伯、二女酸、尾張藩医家姓名録、尾張名陽図会、士林浜洞

【Abstract】

江戸の名倉、といえば、誰もが知る骨接ぎの大家である。現在は本家、分家ともに整形外科医院を開業し、日本橋の名倉家の名倉武雄先生は、慶應義塾大学医学部運動器生体工学寄附講座の特任教授を務められているのは多くの方がご存じのことだろう。尾張には、江戸時代より現代まで地域に根差した産科医の奈倉家がある。この尾張の奈倉家は名倉家と書かれた書物もあり、年代は違えども、ルーツや住んでいた場所など、江戸の名倉家と近い部分が多くある。今回、尾張・名古屋における医療史として奈倉家について調べてみた。

◆②『釣玄四科全書 整骨篇』と顎関節脱臼

接骨医学史研究会 荒川 政一

【key words】釣玄四科全書整骨篇、奥田万里、顎関節脱臼、整復

【Abstract】

江戸時代の尾張には、医学館という名の医学塾があった。その医学館で行われた薬品会の様子が、『尾張名所図会』という書物に描かれている。薬品会というのは、現代で言うところの博覧会である。この図を見てみると、二体の骨格模型があり、その前で講義が行われている。この骨格模型は、奥田万里が尾張の医学館に献呈したもので、奥田木骨と呼ばれている。名古屋市博物館には、江戸時代に制作された、この奥田木骨が一体所蔵されている。しかし公開はされていない。2015年に当分科会と接骨医学史研究会の夏期研修で、この奥田木骨を特別に見学することが出来たが、写真撮影は許可されなかった。そのため実物の奥田木骨を画像に残すことは出来なかった。奥田木骨は東京の国立科学博物館にも一体あり、こちらは公開されている。ガラス越しではあるが、誰でもみることが出来る。奥田木骨は分解され箱に入れて保管されているが、2014年の特別展では組み立てられた状態で公開された。これを見ると、奥田万里は骨の形態を熟知していただけではなく、関節の構造も理解していたことが分かる。その知識は、脱臼の整復にも活かされただろう。奥田万里の脱臼整復とはどのようなものであったのだろうか。奥田万里の肩関節脱臼の治療については2018年に、肘関節後方脱臼については2019年に、本フォーラムで福田 格が発表している。そこで今回は、奥田万里の顎関節脱臼の整復について発表する。資料は奥田万里の著作『釣玄四科全書 整骨篇』である。奥田万里は各務文献の門人である。顎関節脱臼について奥田万里は「通常の脱臼については、各務文献の整骨新書に詳しく書いてある(意訳)」と記し、脱臼後数日が経ち整復困難なものについては独自の整復法を記載している。

◆③「長誓寺史」から読み解く近世尾張の接骨史

東京有明医療大学 福田 格

【key words】長誓寺史、森林平、接骨医、鶴の丸万金膏、力士 濃尾大地震

【Abstract】

愛知県尾張一宮と近接する大治町には日本を代表する医療史跡がある。一つは医聖堂に祀られ、石碑12番手に刻印される日本初の眼科専門医“馬島清眼”の開基した明眼院である。所在は愛知県海部郡大治町馬島北割114にあり、馬島流眼科として皇室をはじめ全国各地から患者が訪れたという。もう一つは一宮に残る近世尾張の接骨医“森林平”家である。隣接する長誓寺は開基依頼600有余年を経る古刹で“森林平”家とは興味深い歴史を共有している。その史実が長誓寺史に記録されており時代考証を加え接骨医として地域貢献した内容を分析することとした。